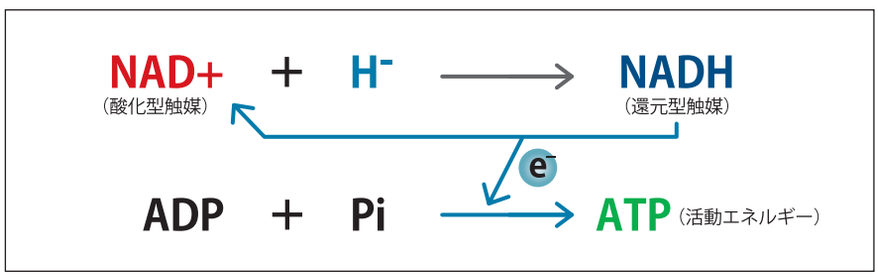
アクティブハイドライド plasma から
マイナス水素イオンが発生していることの証明

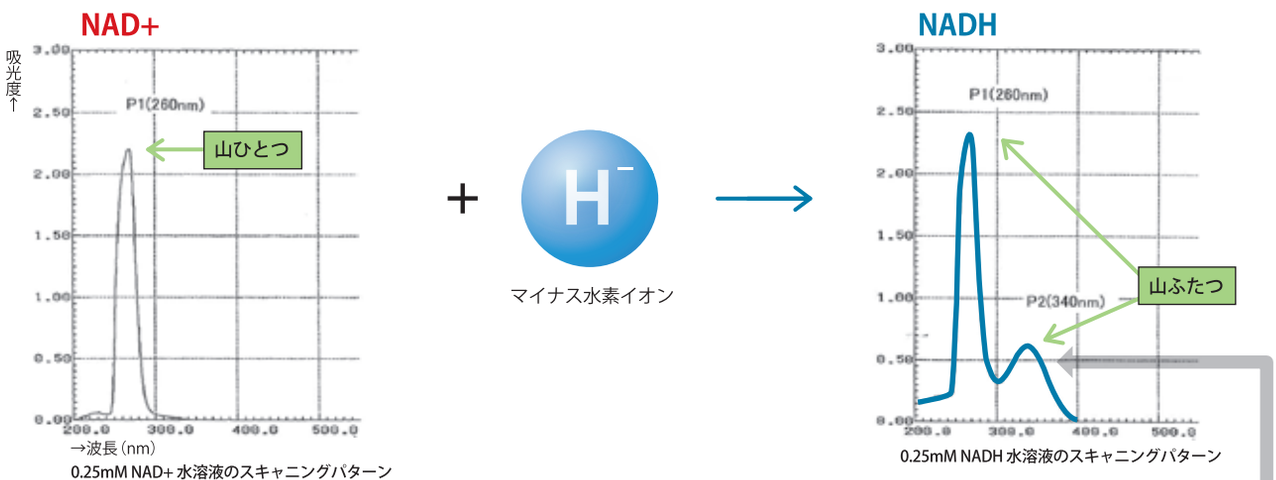
体内の微小器官ミトコンドリアの中では、酵素の働きで酸素をゆっくり燃焼させながら、食物から摂取した栄養素の中から水素が取り出され、マイナス水素イオンが造り出されています。そのマイナス水素イオンが放出する電子を燃料にして、私たちの活動エネルギー（ATP）が造り出されていることが知られており、医学の基本書である生化学辞典＊にも、次のように記載されています。



※リー無機化学辞典
ヴォート基礎生化学辞典
ハーパー生化学辞典

この記載は、マイナス水素イオンが、ミトコンドリアの内膜にある酸化型触媒 NAD+ にくっついて電子を放出することで、NAD+ が、還元型触媒 NADH に変化していることを意味し、さらにこの NADH が元の触媒 NAD+ に戻ろうとする時、マイナス水素イオンからもらっていた電子を（電子伝達系に）放出し、それが燃料となって、私たちの活動エネルギー（ATP）が産出されていることを意味しています。

この NAD+ から NADH への触媒変換は、分光光度計で見てみると、次のようなスキャニングパターンで確認されます。



0.25mM NAD+ 水溶液のスキャニングパターン

0.25mM NADH 水溶液のスキャニングパターン

及川博士は生体外の実験で、体内で発生するマイナス水素イオンに替えて、アクテイブハイドライド plasma を NAD＋溶液に加えると、NAD+のスキャニングパターンが、マイナス水素イオンが働いた時と同様の NADH スキャニングパターンに変わることを確認しました。

0.25mM NAD+ 水溶液のスキャニングパターン

2%アクティブハイドライド Plasma を含む
0.25mM NAD+ 水溶液のスキャニングパターン

この実験結果は、アクテイブハイドライド plasma の中に、NAD+を NADH に変換するマイナス水素イオンが、大量に含まれていることを証明しています。

ニューミレニアムネットワーク株式会社